

都市再生整備計画 モニタリングシート  
JR奈良駅周辺地区

平成22年12月

奈良県奈良市

様式3 評価結果のまとめ

都道府県名	奈良県		市町村名	奈良市		地区名	JR奈良駅周辺地区		面積	407ha		
交付期間	平成19年度～23年度		事後評価実施予定時期	平成23年度	モニタリング実施時期	平成22年	交付対象事業費	4067.9	国費率	0.44		
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施済み、実施中、実施予定の事業	基幹事業	事業名				事業進捗の状況(順調か、遅れているか)					
		提案事業	道路(三条線)				用地取得が難航している。					
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
		提案事業	なし。				三条本町線以南のJR高架下利用と一体的に整備することがより効果的であるため削除。		影響なし。			
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(大宮三条本町線、(仮称)JR奈良駅西側歩行者道)、地域生活基盤施設(JR奈良駅東口駅前広場、JR奈良駅西口駅前広場拡幅、(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場)、高質空間形成施設(JR高架下公衆トイレ、JR奈良駅東口駅前デッキシェルター)、高次都市施設(JR奈良駅東口駅前広場デッキ・階段等、JR奈良駅西口駅前広場デッキ)				JR奈良駅周辺を中心とした町の質の向上、歩行者交通環境の改善、歩行者動線の確保、駅前利用者の利便性を図るため、事業を追加。		(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場の追加の除、「指標3:JR奈良駅周辺の放置自転車数」を追加。その他、影響なし。			
		提案事業	JR奈良駅東口通路、旧松矢家住宅活用事業、三条線と駅前広場の整備とあわせた景観計画、近鉄奈良駅周辺交通結節点改善計画策定				<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR奈良駅東口通路:歩行者動線を確保し、市民や観光客の利便性を図るため、事業を追加。</li> <li>・旧松矢家住宅活用事業:観光・市民交流と賑わいの拡大を図るため、事業を追加。</li> <li>・景観計画:JR奈良駅前、三条線と周辺町並みの景観計画策定のため追加。</li> <li>・近鉄奈良駅周辺交通結節点改善計画:近鉄奈良駅周辺の交通結節点強化検討のため事業追加。</li> </ul>		影響なし。			
	交付期間の変更	当初	平成19年度～21年度		変更による事業、指標、数値目標への影響		事業期間の延伸により、各指標の目標値を修正					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		モニタリング		目標	総合所見	今後の対応方針	
			基準年度		目標年度	計測年度	達成見込み					
	指標1	三条線の歩行者交通量の増加	人/日	9,618	H18	12,000	H23	9,883	H21	あり:● なし:○	事業中であるため、まちづくり交付金事業の効果が発現するまでの事業進捗が見られない。	三条線(三条工区)の推進及び、各事業の相乗効果により歩行者通行量の増加を図る。
	指標2	旧駅舎への来訪者数	人/日	200	H17	240	H23	256	H21	あり:● なし:○	旧駅舎の一部外構工事を残しているが、平成21年7月25日に旧駅舎の奈良市総合観光案内所がオープンすることにより、事業効果があつたといえる。	JR旧奈良駅舎耐震改修・施設整備の推進及び、各事業の相乗効果により利用促進を図る。指標の見直しを行う。
指標3	JR奈良駅周辺の放置自転車数	台/日	78	H20	25	H23	14	H22	あり:● なし:○	事業未着手であるが、東口駅前広場の臨時駐輪場が、高架下に移動したことにより、放置自転車数が減少した。	(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場の推進及び、各事業の相乗効果により利用促進を図る。指標の見直しを行う。	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		モニタリング		目標	総合所見	今後の対応方針	
	その他の数値指標		基準年度		目標年度	計測年度	達成見込み					
4)定性的な効果発現状況												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対応方針等	
	モニタリング	都市再生整備計画(第3回・第5回変更)時にモニタリングを実施					都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した					●
	住民参加プロセス						都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した モニタリング時点では実施していない					
6)モニタリングの所見	総合所見	順調	●				一部の事業進捗の見通しの良くない事業や、別途他事業に併せて施行の方が望ましい事業があるが、それを除くと事業は順調に進んでいる。		今後の事業の改善点		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業計画の見直し(精査)。</li> <li>・(仮称)JR奈良駅西側歩行者専用道、JR奈良駅東口通路の事業削除</li> <li>・三条線の精査による提案事業の追加</li> <li>・指標1、2、3の名称・数値等の変更</li> </ul>	
		要改善	○									

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標	●		—	指標3:JR奈良駅周辺の放置自転車数(追加)	(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場の事業追加に伴い、その事業効果は必ずしも現指標で確認できるものではないため、新たに指標を追加した。
C. 目標値	●		指標1:三条通の歩行者交通量の増加 従前値(6700)、目標値(7000)  指標2:旧駅舎への来訪者数 従前値(200)、目標値(220)	指標1:三条通の歩行者交通量の増加 従前値(9618)、目標値(12000)  指標2:旧駅舎への来訪者数 従前値(200)、目標値(240)	指標1:目標年度の推計をより適正化するため、平成10年、14年、17年～19年に実施されている三条通に計測箇所を変更し、その対象を断面交通量に変更するとともに、中心市街地活性化基本計画を踏まえた目標値に変更した。  指標2:近年減少傾向にあった利用者数が増加に転じて改善の傾向が見られることにあわせて、交付期間の延伸に伴う目標年度の変更により、目標値を上方修正した。
D. その他( )	●		事業期間:平成19年度～平成21年度	事業期間:平成19年度～平成23年度	JR奈良駅周辺を中心とした当地区の質の向上を図り、観光・市民交流と賑わいの拡大を継続的に発展させるには、新たな事業の実施が必要であるため、事業追加にあたり、事業期間を3年から5年に延伸した。

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業											
事業	事業箇所名	当初計画		モニタリング時		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	モニタリング時の状況			今後の事業見込み
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			未着手	事業中	完成	
道路	三条線(三条工区)	1,466.6	都市計画道路三条線 (L=150m)	2,140.0	都市計画道路三条線 (L=150m)	事業費の精査により増額変更。	影響なし		●		一部用地買収が難航しているが、平成23年度完了に向け、事業を推進する。
	大宮三条本町線	—	なし	16.7	都市計画道路大宮三条本町線 (L=65m)	歩行者交通環境等の改善を図るためH20年に事業を追加	影響なし			●	平成22年度完了
	(仮称)JR奈良駅西側歩行者道	—	なし	265.2	(仮称)JR奈良駅西側歩行者道 (L=191m)	歩行者ネットワークを強化し、憩いと潤いを持った都市空間の形成を図るためH20年に事業を追加	影響なし	●			当該施設と歩行者ネットワークの形成を図ることとなる、三条本町線の整備やJR高架下等の整備が、平成24年度以降となったため、それらとの一体的整備を図ることがより効果的であることから、本計画からは削除し、平成24年度以降に整備を行う。
地域生活基盤施設	JR高架化に伴う隙間地を活用した緑地整備	77.0	A=280㎡	—	なし	三条本町線以南のJR高架下利用と一体的に整備することがより効果的であるため、H20年に事業を削除	影響なし	●			
	JR奈良駅東口駅前広場	—	なし	30.2	A=1000㎡	歩行者交通環境の整備を図るためH20年に事業を追加	影響なし			●	平成22年度完了
	JR奈良駅西口駅前広場拡幅	—	なし	146.8	A=535㎡	JR高架化に伴う鉄道残地を有効活用するためH20年に事業を追加	影響なし	●			駅高架工事等の関連により着手していないが、調整を図り、平成23年度に完了する。
	(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場	—	なし	308.4	1,156㎡ 471台	自転車利用者の利便性を図り、駅周辺の放置自転車を防止するためにH22年に事業を追加。	事業追加に伴い、その事業効果は必ずしも現指標で確認できるものではないため、新たに指標を追加した。	●			駅高架工事等の関連により着手していないが、調整を図り、平成23年度に完了する。
高質空間形成施設	JR高架下公衆トイレ	—	なし	54.0	JR高架下公衆トイレ (1箇所・150㎡)	駅前利用者の利便性を図るためH20年に事業を追加	影響なし		●		平成22年度完了予定
	JR奈良駅東口駅前広場デッキシェルター	—	なし	122.4	508㎡	雨天時など、歩行者の利便性向上のためH22年に事業追加	影響なし		●		平成22年度完了予定
高次都市施設	JR奈良駅東口駅前広場デッキ・階段等	—	なし	497.9	フロアデッキ 234㎡ 階段 W=3~5m エスカレーター 2基	歩行者交通環境の整備を図るためH20年に事業を追加	影響なし		●		平成23年度完了予定
	JR奈良駅西口駅前広場デッキ	—	なし	196.5	210㎡	新駅舎への歩行者動線を確保するためH20年に事業を追加	影響なし			●	平成22年度完了

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		モニタリング時		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、 数値目標等への影響	モニタリング時の状況			今後の事業見込み
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			未着手	事業中	完成	
地域創造 支援事業	JR旧奈良駅舎耐震改修・施設整備	114.4	JR旧奈良駅舎を有効活用するための整備 (A=473㎡)	186.7	JR旧奈良駅舎を有効活用するための整備 (A=473㎡)	内装のグレードアップ等による事業費の増加	影響なし		●		周辺整備事業との整合性を図りながら事業を推進する。 事業内容の精査が必要
	JR奈良駅東口通路	—	なし	7.4	A=220㎡	歩行者動線を確保し、市民や観光客の利便性を図るためH20年に事業追加	影響なし	●			東口駅前広場の2期工事(最終整備)には工事用進入路が必要であるため、本通路を工事用進入路とし、本通路整備を駅広整備と併せて施行することが望ましいことから、本計画から削除し、平成24年度以降整備を行う。
	旧松矢家住宅活用事業	—	なし	70.9	300㎡	奈良町の活性化、観光振興の推進を図るためH22年に事業追加	影響なし		●		平成23年度に完成予定
事業活用調査	歴史的町並み資産調査	5.0	奈良町都市景観形成地区 (A=約50ha)	5.1	奈良町都市景観形成地区 (A=約50ha)	より詳細な調査の実施による事業費の増加	影響なし			●	計画通り事業完了
	三条線と駅前広場の整備とあわせた景観計画	—	なし	9.7	景観計画策定 (A=約5.5ha)	JR奈良駅前、三条線と周辺町並みの景観計画策定のためH19年に事業追加	影響なし			●	計画通り事業完了
	近鉄奈良駅周辺交通結節点改善計画策定	—	なし	2.1	交通結節点改善計画策定 (A=約4.8ha)	交通結節点の機能強化検討のためH19に事業追加	影響なし			●	計画通り事業完了
まちづくり 活動推進事業	ならまちまちしるべの設置	17.0	町名標柱・文化財標柱設置工事 (140箇所)	8.0	文化財標柱設置工事 (29箇所)	地域住民による町名標柱設置と重複することから、H20年に計画を見直し文化財標柱設置のみとした。	影響なし			●	計画通り事業完了



添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と モニタリング値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		モニタリング (エ)		現段階での 目標達成 見込み		総合所見	今後の方針
			基準 年度		基準 年度		目標 年度		実施 年度		あり	なし		
指標1	三条通の歩行者交通量	人/日	奈良市中心市街地活性化協議会において、毎年8月の燈花会の開催日の日曜日に三条通(旧ダイエー前)で測定した歩行者・自転車・バイクの交通量を使用	17,158	H10	9,618	H18	12,000	H23	9,883	H21	●	事業中であるため、事業の効果が発現するまでの事業進捗が見られない。 三条通の歩行者通行量は減少傾向にあったが、平成19年度以降は前年歩行者数を上回り増加に転じている。これは調査日に行われる燈花会会の参加者数が増加しているためと思われる。しかし、平成21年度の調査においては、調査日が雨天という特殊要因があり、交通量の減少に繋がったと思われる。	三条線(三条工区)の推進及び、各事業の相乗効果により歩行者通行量の増加を図る。
指標2	旧駅舎への来訪者数	人/日	JR奈良駅前にある観光案内所の1年間の利用者数を365日で除し、1日当たりの利用者数に換算	199	H13	200	H17	240	H23	256	H21	●	JR旧奈良駅舎の一部外構工事を残しているが、平成21年7月25日に旧駅舎の奈良市総合観光案内所がオープンすることにより、事業効果があったといえる。	JR旧奈良駅舎の外構工事がまだ完成していないが、事業の推進及び、各事業の相乗効果により利用者の増加を図る。 目標が達成されているため、指標の見直しを行い、必要ならば変更することで、より事業の効果を表現できるようにする。
指標3	JR奈良駅周辺の放置自転車数	台/日	JR奈良駅周辺自転車等放置禁止区域の一日あたりの平均撤去台数に(4月~6月平均)	52	H16	78	H20	25	H23	14	H22	●	(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場の推進及び、各事業の相乗効果により放置自転車の減少を図る。 (仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場は事業未着手であるが、東口駅前広場の臨時駐輪場が、高架下に移動したことにより、放置自転車数が減少した。	(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場の推進及び、各事業の相乗効果により放置自転車の減少を図る。 事業未着手にもかかわらず、放置自転車数が減少したため、指標の見直しを行い、必要ならば変更することで、より事業の効果を表現できるようにする。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と モニタリング値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		モニタリング (エ)		本指標を取り上げる理由	総合所見	今後の方針
			基準 年度		基準 年度		目標 年度		実施 年度				
その他の数値指標1													

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

--

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の方針等
都市再生整備計画の変更(第3回変更)時にモニタリングを実施	予定どおり実施した	平成20年2月～ モニタリング実施 モニタリング結果を受け、都市再生整備計画の変更(平成20年11月変更)を行った。	
	予定はなかったが実施した ●		
都市再生整備計画の変更(第5回変更)時にモニタリングを実施	予定どおり実施した	平成21年7月～ モニタリング実施 モニタリング結果を受け、都市再生整備計画の変更(平成22年3月変更)を行った。	
	予定はなかったが実施した ●		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の方針等
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	モニタリング時点では実施していない		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	モニタリング時点では実施していない		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	モニタリング時点では実施していない			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	モニタリング時点では実施していない			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な検討体制	企画政策課、交通政策課、財政課、観光交流課、観光企画課、商工労政課、JR奈良駅周辺開発事務所、街路課、都市計画課	平成22年7月～12月	奈良市 都市整備部 都市計画室 都市計画課

添付様式4-② 効果発現要因の整理

指標の種類		指標1		指標2		指標3	
指標名		三条線の歩行者交通量		旧駅舎への来訪者数		JR奈良駅周辺の放置自転車数	
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	三条線(三条工区)	—	事業中であるため、事業の効果が発現するまでの事業進捗が見られない。 三条線の歩行者通行量は減少傾向にあったが、平成19年度以降は前年歩行者数を上回り増加に転じている。これは調査日に行われる燈花会の参加者数が増加しているためと思われる。しかし、平成21年度の調査においては、調査日が雨天という特殊要因があり、交通量の減少に繋がったと思われる。	—	旧駅舎の一部外構工事を残しているが、平成21年7月25日に旧駅舎の奈良市総合観光案内所がオープンすることにより、事業効果があったといえる。	—	(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場は事業未着手であるが、東口駅前広場の臨時駐輪場が、高架下に移動したことにより、放置自転車数が減少した。
	大宮三条本町線 (仮称)JR奈良駅西側遊歩道	—					
	JR奈良駅東口駅前広場	—					
	JR奈良駅西口駅前広場拡幅 (仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場	—					
	JR高架下公衆トイレ	—					
	JR奈良駅東口駅前広場デッキシェルター	—					
	JR奈良駅東口駅前広場デッキ・階段等	—					
	JR奈良駅西口駅前広場デッキ	—					
提案事業	JR旧奈良駅舎耐震改修・施設整備	—	◎	—	—	—	
	JR奈良駅東口通路	—					
	旧松矢家住宅活用事業	—					
	歴史的町並み資産調査	—					
	三条線と駅前広場の整備とあわせた景観計画	—					
関連事業	近鉄奈良駅周辺交通結節点改善計画策定	—	—	—	—	—	
	ならまちまちなるへの設置	○					
	JR奈良駅周辺土地区画整理事業	○					
	JR奈良駅南土地区画整理事業	—					
	街路事業 平城遷都1300年祭 なら燈花会 ハサラ祭り	○ — ○ ○					

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献している。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献している。
- △：完成直後又は事業開始直後のため、効果の発揮に至っていない。
- ×：事業が完成したが、期待通りの効果を発揮していない。
- ：評価できない。
- 〔 未着手又は事業中のため評価できない、事業と指標とに関係がないので評価できない 〕

今後の方針等	三条線(三条工区)の推進及び、各事業の相乗効果により歩行者通行量の増加を図る。	JR旧奈良駅舎の外構工事がまだ完成していないが、事業の推進及び、各事業の相乗効果により利用者の増加を図る。指標が見直しを行い、必要ならば変更することで、より事業の効果を表現できるようにする。	(仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場の推進及び、各事業の相乗効果により放置自転車の減少を図る。事業未着手にもかかわらず、放置自転車数が減少したため、指標の見直しを行い、必要ならば変更することで、より事業の効果を表現できるようにする。
--------	---	---	---

#### (4) モニタリングの所見

##### 添付様式5-① まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	モニタリングの時点で達成されたこと (課題の改善状況)	交付期間中に解決すべき 残された課題	交付期間中に発生した 新たな課題
JR奈良駅周辺地区の拠点的土地 利用の促進、観光拠点ターミナル機 能の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR旧奈良駅舎などの駅周辺施設の整備を交付期間中に確実に完成し、供用させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR高架下を活用した計画が具体化したため、関連する(仮称)JR奈良駅西側歩行者道もそれらに併せて施行することが望ましい。</li> <li>・東口駅前広場の2期工事(最終整備)には工事用進入路が必要であるため、本道路を工事用進入路とすることが望ましく、JR奈良駅東口通路を駅広整備と併せて施行する必要がある。</li> <li>・三条線(三条工区)にポラード・照明灯等の整備が入っていたが、街路事業で整備することが困難なため、別事業で施工する必要がある。</li> </ul>
中心市街地の賑わいを高める		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JR奈良駅と近鉄奈良駅を結ぶ三条通の整備を進め、中心市街地へと歩行者を誘導し、賑わいを高めていく。</li> </ul>	

添付様式5-② 総合所見・今後の事業の改善点

総合所見		今後の事業の改善点		
		具体的項目	内容	
順調	●			
計画・事業の進め方の改善が必要		事業の進め方の工夫		
一部に事業進捗の見通しの良くない事業や、別途他事業に併せて施行する方が望ましい事業があるが、それを除くと事業は順調に進んでいる。		都市再生整備計画の見直しの必要性	道路 三条線(三条工区)(変更)	基幹事業の一部であったボラード等の整備を、快適でより良い空間整備を行うため提案事業として追加し、事業費を振り分けることにより工事費が減となる。また、補償物件調査の実施により全体補償費が増となる。これらの事業費の精査による減額を行う。
			道路 大宮三条本町線(変更)	東口通路部の整備を平成24年度以降実施に変更することに伴い、工事延長を65mから60mに変更(東口通路開口分の減少)するとともに、事業執行による事業費の減額を行う。
			道路 (仮称)JR奈良駅西側歩行者道(削除)	当該施設と歩行者ネットワークの形成を図ることとなる、三条本町線の整備やJR高架下の整備が、平成24年度以降となったため、それらとの一体的整備を図ることがより効果的であることから、本計画からは削除する。
			地域生活基盤施設 JR奈良駅東口駅前広場(変更)	事業執行による事業費の減額を行う。
			地域生活基盤施設 JR奈良駅西口駅前広場拡幅(変更)	事業費の精査による増額を行う。
			地域生活基盤施設 (仮称)JR奈良駅東口自転車駐車場(変更)	自転車駐車場の駐車枠に自転車を駐車する方式から、大部分をスライドラック使用に変更することにより、必要な収用台数を減らすことなく自転車の収用に必要な面積を減らすことができる。このことにより、当初計画の一層・二層の建築物二棟の整備から、建設コストを縮減し、利用者の利便性とJR奈良駅周辺の美観を向上させるために、一層の建築物二棟の整備に変更する。建築物の規模変更に合わせて、市による自転車駐車場の整備・管理から財団法人自転車駐車場センターによる自転車駐車場の整備・管理に変更することにより、市の工事費の負担が必要なくなり、事業費を減額変更する。
			高質空間形成施設 JR奈良駅東口駅前広場デッキシェルター(変更)	事業費の精査による減額を行う。
			高次都市施設 JR奈良駅東口駅前広場デッキ・階段等(変更)	事業執行による事業費の減額を行う。
			高次都市施設 JR奈良駅西口駅前広場デッキ(変更)	事業執行による事業費の減額を行う。
			地域創造支援事業 JR奈良駅東口通路(削除)	当初計画では、市総合観光案内所(旧奈良駅舎)の外構工事と併せて整備する予定であったが、当該部分が平成24年度以降に予定している東口駅前広場の2期工事(最終整備)の工事用ヤードとして不可欠となったことにより、この工事と併せて一体的な整備を図ることとし、本計画から削除する。
地域創造支援事業 旧松矢家住宅活用事業(変更)	事業費の精査による減額を行う。			

		<p>地域創造支援事業 良好な歩行者空間整備(追加)</p>	<p>基幹事業(三条線(三条工区))の一部であったポラード等の整備については、街路事業で整備することが困難であることが判明し、歩行者のための快適でより良い空間整備を行うため、基幹事業から工事費を振り分け、別途提案事業を追加。H23年度に事業を行う。</p>
		<p>指標1:三条通の歩行者交通量の増加</p>	<p>指標の数値は当初から歩行者交通量だけでなく二輪車も入っており、より指標を明確にするため指標名を『三条通の歩行者交通量の増加』から『三条通の歩行者・二輪車交通量』へ変更する。定義を『JR奈良駅と東の観光拠点を結ぶ三条通の歩行者数』から『JR奈良駅と東の観光拠点を結ぶ三条通の歩行者・二輪車の交通量』へ変更する。</p>
		<p>指標2:旧駅舎の来訪者数</p>	<p>より指標の表現を明確にするため、指標名を『旧駅舎への来訪者数』から『観光案内所への来訪者数』へ、定義を『JR奈良駅前観光案内所来訪者数』から『奈良市総合観光案内所及びJR奈良駅総合観光案内所の来訪者数』へ変更する。 近年減少傾向にあった利用者数が増加に転じて改善が見られるため、指標を見直した結果、現指標の数値は日本人の利用者数のみであったが、近年外国人の利用が増加してきているため、外国人も含めて従前値:283人/日(H17)、目標値:535人/日(H23)と変更する。</p>
		<p>指標3:JR奈良駅周辺の放置自転車数</p>	<p>近年増加傾向にあった放置自転車数が減少に転じて改善が見られるため、指標を見直した結果、目標値:10台/日(H23)と変更する。</p>

## (5) モニタリング原案の公表

### 添付様式6 モニタリング原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成22年10月15日から 平成22年11月15日まで	平成22年10月15日から 平成22年11月15日まで	郵送、FAX、Eメール	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	市広報紙(しみんだより)にモニタリングシート原案を公表している旨、閲覧可能な場所や意見募集について掲載	平成22年10月15日から 平成22年11月15日まで	平成22年10月15日から 平成22年11月15日まで		
説明会・ワークショップ					
その他					

住民の意見	特になし				
-------	------	--	--	--	--

## (6) 有識者からの意見聴取

### 添付様式7 有識者からの意見聴取

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署
同志社大学 名誉教授 商学博士 杉江 雅彦 氏 (奈良国際文化観光都市建設審議会 会長)	平成22年11月17日(金)	奈良市 都市整備部 都市計画室 都市計画課

有識者の意見	<p>◆モニタリング時において、完成7事業、事業中6事業、未着手5事業となっており、来年度で事業終了にもかかわらず事業の進捗率が低いと感じられる。今後、事業の完成に向け一層の事業進捗を図り、各事業の進捗に伴う相乗効果によりまちづくりの目標及び各指標の目標値が達成されるよう図られたい。</p> <p>◆他の関係事業との関係により、(仮称)JR奈良駅西側歩行者道及びJR奈良駅東口通路が都市再生整備計画より削除される予定になっているが、当事業は平成24年度以降にJR奈良駅東口駅前広場本整備等と同時に事業を行うということなので、今後のJR奈良駅周辺のまちづくりにおいて完成されたい。</p> <p>◆三条線の事業精査により、「良好な歩行者空間整備」が三条線から抜きだされ、提案事業に新規事業として追加する予定になっているが、三条通は中心市街地の賑わいの中心軸と位置付けられているため、それに相応しい整備がされ、本整備計画の目標及び指標が達成されることを期待する。</p> <p>◆指標の目標値等の見直しがあったが、特に指標2の観光案内所の利用者数については、旧駅舎を本整備計画において整備し、奈良市総合観光案内所として平成21年7月にオープンした結果、その事業効果により予想を上回る利用者数があったので、上方修正することは適切であると思われる。さらに、整備計画全事業が完成することにより、全ての指標が達成されるよう努力されたい。</p>
--------	---